

2016年度

大学コンソーシアム京都 指定調査課題 成果報告会・交流会

参加無料!

日時 2017年3月22日(水) 18時30分~20時40分

場所 キャンパスプラザ京都 [京都駅徒歩5分]

大学コンソーシアム京都では、指定調査課題を設定し、専門分野の研究者による調査研究を行っています。

このたび、2016年度に行った調査研究の成果を広く発信するとともに、大学の枠を越えた研究者同士の交流や研究者と大学教職員、学生、市民、行政職員等の交流を図るため、成果報告会・交流会を以下のとおり開催します。ふるってご参加ください。

1 成果報告会：18時30分~19時30分

○調査研究テーマ

「大学での障害者差別解消へ向けたアクセシビリティと合理的配慮のDBの構築
障害学生支援室連携組織の設立に向けて」

○研究グループ

京都大学大学院工学研究科 吉田 哲 准教授(研究代表者)

同志社大学政策学部 関根 千佳 教授

京都大学大学院医学研究科 岩隈 美穂 准教授

同志社大学学生支援センター 土橋 恵美子 障害学生支援コーディネーター

京都大学学生総合支援センター 村田 淳 助教

京都産業大学理学部事務室 井上 友裕 氏

特定非営利活動法人アイコラボレーション 山本英嗣 理事長(研究協力者)

※研究内容については、裏面をご覧ください。



2 交流会：19時40分~20時40分

3 定員：100名(先着順)

4 参加費：無料

5 参加方法

どなたでも参加できます。参加を希望される方は、①件名を「成果報告会参加希望」として、②氏名、③職業(大学教職員及び学生の方は大学名まで記載)、④連絡先電話番号及びメールアドレス、⑤交流会の参加予定(参加・不参加・未定)を明記のうえ、3月10日(金)までに以下E-mailアドレスへお申し込みください。 折り返し、申込確認の連絡をメールで返信します。

6 お問い合わせ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 調査・広報事業部 藤井

E-mail : shitei_kadai-ml@consortium.or.jp TEL : 075-353-9130

● 調査研究の概要

2016年4月の障害者差別解消法の施行への対応として、各大学では障害学生支援室の設置に始まり、学内の物理的環境の把握・改善、教育・研究を支援するソフトやサービス環境の改善や障害学生支援担当職員の個別知識やノウハウの共有が急務となっています。

本調査研究は、下記の取組を通じ、各大学での取組や知見を網羅するデータベースの構築し、大学での障害者差別解消に向けた取組の推進を目的に実施しています。

1 障害学生支援部署が蓄積した支援にあたっての個別知識やノウハウの研究

(1) 障害学生支援室のノウハウの「見える化」

障害学生支援室の設立から軌道に乗せるまでの年間業務スケジュール、コーディネーターの必須業務を整理するとともに、ポイントとなる暗黙知の見える化を目指しています。

(2) 障害学生支援コーディネーターたちの支援ノウハウの構造化と支援における障害学生の視点に関する探索的質的研究

コーディネーターの障害学生に対する面接をエスノグラフィー、会話研究で調査し、支援スキルの構造化を行います。

2 校舎の講義室や共用部分等のアクセス情報・バリア情報、施設改修の進め方の研究

(1) 障害学生の大学施設へのアクセス方法のデータベース化

京都大学吉田南キャンパス、同志社大学今出川校地、京都産業大学の講義室、校舎共用部分のアクセスやバリアに関する情報の調査し、データベース化を進めています。

(2) 障害学生支援にあたっての建物改修例の収集とデータベース化

障害学生支援における建物改修に関しては事例を羅列するのではなく、関係者の改修への関与の過程（A改修前の設計段階からの支援、B工事直前段階での支援、C工事完了直後の改修への支援）を記録し、関係部署の改修工事への関わり方の「肝」を示します。

3 三大学の Web アクセシビリティ情報や講義などでの情報保障の現況調査

授業、図書館、Web サイトにおける情報保障の状況を調査し、改善策も検討します。

4 障害学生、コーディネーターへのインタビュー調査

支援を受けている障害学生やコーディネーター業務に実際に関わる職員へのインタビューを通じ、支援に関するハード・ソフト両面での現況の満足や困難の確認を行います。



※画像はいずれも(2)-1に関する調査実施時の様子